

今回は、3 回目のチョーライ病院の訪問でした。短時間ではありましたが、術後管理セミナーの一環として人工呼吸患者の譫妄（せんもう）に関してプレゼンテーションを行いました。

重症患者の譫妄に関しては、ここ 10 年の間に多くの知見が得られ、譫妄と予後に関連性があることが示され、様々なガイドラインで譫妄の評価を行うことが推奨され、日本でも ICU では譫妄の評価がルーチンに行われるようになりつつあります。人工呼吸管理下の患者に対する譫妄評価としては、日本では CAM-ICU という米国で開発された譫妄スクリーニングツールが頻用されるのですが、CAM-ICU はベトナム語に翻訳されておらず、重症患者の譫妄の重要性や評価方法に関しては、ほとんど知られていないのが現状のようです。プレゼンテーションの中では、譫妄評価の重要性、譫妄評価の方法、譫妄の予防方法に関して概説しました。特に鎮静薬の選択、使用方法に関しては参加している看護師の関心が高く、活発な意見交換が行われたと思います。譫妄の予防には鎮静薬と鎮痛薬を分けて管理することが重要（鎮痛はしっかりと行い、鎮静はより少なくする）なのですが、ベトナムではシリンジポンプの数を制限するため（シリンジポンプの数が足りない）、鎮静薬と鎮痛薬をミックスして投与することが多いという現場レベルでの意見も聞いたことは有意義であったと思います。重症患者の譫妄に関しては、関心も高く、今後も継続して筑波大学附属病院 ICU と連携、情報交換できればよいと思いました。



術後管理セミナーでの発表の様子

